

第3章 取り組むべき方向性

第2章における分析の結果、少数ではあるが、さまざまな理由により、困っている子どもとその保護者がいることがわかった。その原因として、

- ・核家族化の進行や地域の連帯意識の低下
- ・保護者の働き方の多様化（ひとり親家庭の増加）
- ・少子高齢化などによる子育て環境の変化

等が考えられる。

子どもたちが生まれ育った環境によって左右されることのないように、また、子育てを社会全体で支えあっていくために、地域住民や関係団体、企業等と連携しながら、見えてきた課題とその原因を踏まえ、次の施策に取り組んでいく。

1 児童・生徒（子ども）に対する支援

(1) 子どもの学習面における支援の充実

「自分の将来が楽しみだと思う」と「学校の勉強がどのくらいわかるか」の関係では、将来が楽しみだと思わない子は、学校の勉強が『わからないことが多い』『ほとんどわからない』と回答した割合が25.3%と高く、勉強が理解できないと将来に希望がもてない傾向にある。また、ひとり親家庭の25.6%が『学習塾に通いたいが、経済的困難等により通えていない』と回答している。

∴子どもの学習機会は、親の状況や収入に関係することが多い。さらに、学習の理解度は、自分の将来への意欲に影響を与えることから、生活困窮世帯を中心に学習面の支援の充実を図る。

■想定される対策事業：子どもの学習支援事業の中学生への拡充
放課後等の補足的な学習サポートの充実

(2) 子どもの生活習慣・環境における支援の充実

「自分のことが好きであるか」の問いに対し、『あてはまらない』と回答した子のうち、「家族のことで困っていることや、嫌なこと」がある子の割合が55.6%（複数回答あり）で、家庭での困りごとがある子は自己肯定感が低い傾向にある。また、同じく『あてはまらない』と回答した子は、放課後に自宅でひとりで過ごしている割合が高かった。

∴子どもが家族や日常生活のことで困っている。そこで、生活の習慣や環境を改善する必要があることから、地域での親子の見守りや、安全・安心に過ごせる居場所の確保などの支援の充実を図る。

■想定される対策事業：民生委員児童委員や主任児童委員による見守りの強化
こども食堂等子どもの居場所運営団体との連携強化

2 保護者に対する支援

(1) 保護者が安心して生活するための支援体制の充実

保護者が現在悩んでいることは、『しつけや教育に自信がない』が1,203人(26.4%)でいちばん多く、全体的に子育てに不安を抱えていることがうかがえる。また、進路や生活など何でも相談できるところを必要とする回答も多い。核家族化の進行や人と人との関わりの希薄化により、保護者が孤立化していると考えられる。特に、ひとり親家庭は相談する相手がいないなどから、深刻なケースになることがある。

∴ひとり親や核家族化により、身近なところに育児の相談相手がいない状況がみられることから、保護者の子育て力を高めるための支援の充実を図る。

■想定される対策事業：家庭児童相談室の強化
すくすくサポート隊、各種学級講座等による支援

(2) 支援が特に必要な保護者への就労・経済的支援体制の充実

保護者の雇用形態は所得に影響を及ぼす。特に、ひとり親において、母子家庭の非正規雇用の割合は高く、経済的に非常に厳しい状況にある。

∴ひとり親家庭は安定した仕事に就き、子育てと両立しつつ自立した生活をする必要があることから、児童扶養手当や就学援助費等の経済支援への確実なつなぎ等、ひとり親家庭の経済的自立支援の充実を図る。

■想定される対策事業：ひとり親の就労支援施策の推進（ハローワークとの連携及び母子父子自立支援相談の強化等）
生活困窮者自立支援事業の周知徹底・強化